

年頭のご挨拶

日立労働基準監督署

署長 毛塚 利光



昭和三十五年の年と記憶しています。池田内閣が発足し、十年以内の所得倍増が目玉とされました。年八%程の経済成長が続いていた当時です。日本経済は今後もこの成長を持続すると判断して掲げられた目標だったと思います。実際十年を経ずして目標は達成されました。昭和三十五年にルーキーとして働き出した方々は、まだまだ現役で頑張っている方がいらつしやる一方、現在大部分が退職をむかえています。元ルーキー達は四十年前を良き時代として記憶されていることでしょう。

当時日本中は湧き上がる熱気にあふれていました。物をつくれば売れる時代。二十数年後のバブル景気とは違ったその「熱気」は、子供であった私にとっても鮮明です。生活スタイルは目に見えて変わり、誰もが今日より明日、今年より来年、もっともつと生活がよくなっていくという確信的な希望をもっていました。家庭には電気製品をはじめとする新製品が入ってきて、身近で生活が豊かになっていくことが実感でき、目に見えることをそのまま信じていることができました。NHKのプロジェクトXという番組が描くような、私たち中高年のオジサンには感激この上ない成功物語を共有できた時代であつたわけです。

新年のあいさつは、夢と希望にあふれた展望などを述べさせていただくのが常道です。しかし角度を少しずらします。平成十四年日立労働基準監督署管内のこととして、全国に発信された三つの大きな事件がありました。よい話ではありません。一つは、

地域の産業の中核であつた製紙工場の閉鎖です。五月のことでしたが、雇用や地域に及ぼす経済的影響は現在でも深刻です。月が明け、さらに一つ、七月には香料を製造する中堅の工場が閉鎖されました。認められていない物質を使用していたことが公になつての廃業でした。もう一つ、八月には運送業の運転手が追突事故をおこし、五名死亡、六名重軽傷という重篤な交通災害が発生しました。これら三つには、いずれも不況という世相の反映があつたことは疑いようがありません。

厳しい経営環境と負けられない競争は、右以外にもさまざまな問題を当署にももたらしました。公共事業を受注する業種では「労災隠し」が跡を絶たず、これも多例のなかの一例です。

現在企業や社会に最大の影響を与えているのは、数の上でも五十代です。この世代は、貧しい時代をくぐり抜け、競争に耐え我慢の根性を養い、鍛えられてきています。同時に発想が貧困な世代、年代ともいわれています。良き時代が遠い過去となつた今、半端でない、柔らかなで、豊かな発想が必要です。

五十代の一人として、本年は、若い世代がいつそう期待され、いつそうのチャンスが与えられる年となることを願い、そして会員の皆様がますます発展される年となることを祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。

謹賀新年

日立労働基準監督署

職員一同

ホームページを開設しました

(社)日立労働基準協会のホームページを関係者のご協力により開設することができました。協会の事業内容、講習会計画等の紹介をはじめ、日立労働基準監督署のニュース等も掲載しておりますが、皆様のご意見等をいただきながら、更に充実したものにしていきたいと考えております。

掲載内容は次の通りです。

- ・ 協会設立の目的、所在地等の紹介
- ・ 事業内容の紹介
- ・ 協会行事の紹介
- ・ 講習会・教育計画の紹介
 - ・ 受講料・テキスト代等の紹介
 - ・ 受講申込状況の紹介
- ・ 協会会員入会のご案内
- ・ 中小企業無災害記録表彰制度の紹介
- ・ 貸出しビデオテープの紹介
- ・ 日立労働基準監督署ニュース
 - ・ 相談件数集計表(10月分)
 - ・ 業種別労働災害発生状況
 - ・ 死亡災害発生状況
- ・ 関係団体リンク

HPアドレスは次の通り

<http://www.hitachi-roukikyo.com/>

